

1. 共通テーマにおける取り組み

○複合的な課題を抱える家族を地域で支える

堺市で1番件数の多い西区の『子ども食堂』に関して目的や内容を知り、運営している2名の方より活動内容や想いを聞いた。さらに、重層的な相談支援体制を地域に作る上で構成員ができることをグループワークで深めた。

○世代や属性を超えたシームレスな連携・支援に向けて

コロナ禍により増加している『不登校』は、長期化することでいずれ8050問題につながる可能性があること事例検討を通して共有した。不登校になっている背景をアセスメントしないと解消には向かわない点、本人家族に加え関わる機関も孤立し課題を抱え混んでしまう点を確認した。使える資源やあったら良いなと思う資源を出し合い、ゲストのスクールソーシャルワーカーから役割と連携についての話を聞いた。

○医療的ケア児等の支援について

令和3年度に課題に挙げた医療的ケア児の課題について、事例報告を通して、住宅改修、居宅内介助、通学、入浴の面から共有した。成長につれ身体が大きくなり、また思春期を迎える医療的ケア児の入浴の場合、設備面と看護師配置、同性介護などの課題がある。全ての資源において、移動時間を30分圏内までに抑えるには、属性を超えたシームレスな資源活用を進め、個別の事情にあった資源を選択できることが重要だと考えた。

<取り組みから見えてきたこと>

- ・構成員の中には福祉サービス以外の資源を知る機会が少なく、また障害のある方を含めた地域での見守りには、障害分野の支援者と地域のつながりの薄さも感じた。
- ・不登校気味の児童が放課後等デイサービスを決定する場合、計画相談をつけるとなっているが必ずしもサービス定着しない中で計画相談員が孤立して困ることがある。また計画相談を新規で受ける事業所も少ない。
- ・医療的ケア児の入浴に関しては、訪問入浴、共生型デイサービスなどを柔軟に使えるようにならないか。

2. 西区独自の取り組み

○高齢者関係者会議・障害者自立支援協議会交流会

防災をテーマに3ヵ年計画で取り組んでおり、知る→体験→啓発を目標とした。「体験」として、堺市総合防災センターを見学。指定相談事業所交流会では、防災マップ、個別避難シートの策定も担当課より学ぶ。令和5年度は地域に啓発、還元していく方法を検討する過程から交流を深める。

○ヘルパー交流会

世話人会では様々な現場からの課題も集約。研修会「発達障害の傾向と対策～当事者から聴く目からウロコの付き合いかた」を開催した。現場のヘルパーが忙しすぎ参加が少なく残念であった。振り返りでは「メンタルヘルス」について学びたいという声があり。

<取組みから見えてきたこと>

- ・各ネットワーク（指定相談事業所交流会、作業所ネットワーク、障害児通所施設事業所交流会）も含めて共通の課題を抱えていることが多く、オープン開催で顔つなぎも含めた勉強会などを企画していくことにより地域でつながり、協働していく土壌をつくることをめざす。